

第43回 RIDCマンスリー研究セミナー

南海トラフ地震など
将来の大地震の発生確率の考え方・求め方とその意義

スピーカー

岡山大学環境生命自然科学学域 教授

隈元 崇

日時

2025年3月19日(水)

12:00~13:00

場所

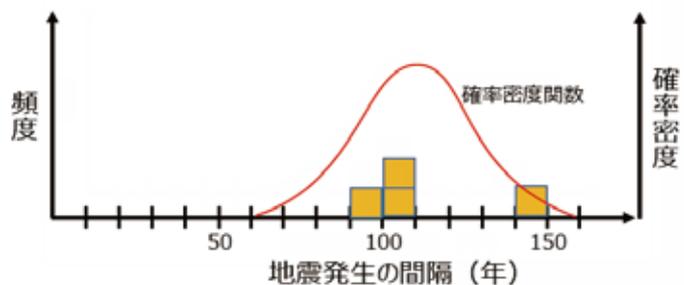
オンライン開催

南海トラフで発生した過去の巨大地震(地震本部, 2013)

年	月	日	地震名	M
1498	9	20	明応地震	8.2~8.4
1605	2	3	慶長地震	7.9
1707	10	28	宝永地震	8.6
1854	12	23	安政地震(東海・東南海)	8.4
1854	12	24	安政地震(南海)	8.4
1944	12	7	昭和(東南海)	7.9
1946	12	21	昭和(南海)	8.0

地震発生の間隔の平均値 111.5年

地震発生の間隔の標準偏差 24.2年



地震のハザードマップの一例として、国の地震調査研究推進本部が公表する全国地震動予測地図を挙げる事ができる。この地図では、「今後30年以内に震度6弱を超える揺れに見舞われる確率」が図化されている。この計算に関連して、特に南海トラフで今後30年間に大地震が発生する確率値約80%については、その根拠となった歴史史料の解釈、地震発生の繰り返しをモデル化する際の考え方、また、確率を用いた地震ハザードマップの有用性や意義について、新聞・単行本・ネットで最近話題となり、関連学会で議論も行われている。今回のセミナーでは、この課題を理解するための大地震の発生確率評価の考え方・計算手法とその結果の意義について、できるだけ平易に解説したい。

お申し込み先

<https://forms.gle/HwnHTsMMdHXas5Dh8>

お申し込み締め切り

3月18日 12:00

お問い合わせ先

文明動態学研究所 ridc@okayama-u.ac.jp



*オンライン開催のため、ご参加希望の方は事前申し込みをお願いします。折返し、参加用URLをお送りします。